

2021年度 活動報告書

特定非営利活動法人NIED・国際理解教育センター

1 事業実施の方針

次に掲げるビジョン、ミッション、バリューに基づき、事業を行った。

<ビジョン>

よりよい未来を、こどももおとなも、ともに学び・ともに創る社会をめざします。

<ミッション>

ビジョン実現のために、「国際理解教育」の実践として、次のことに取り組み続けます。

- ① 社会の課題に気づき、人権・環境・平和を守る価値観や行動力を育みます。
- ② 自分、他者、社会に関わるスキルを培い、社会に対する効力感を育みます。
- ③ 様々な教育現場で、参加型の人権教育・環境教育・平和教育などを広め、またその担い手を養成します。
- ④ 様々な地域やテーマの場で、参加と対話によるコミュニティづくりを進め、またその担い手を養成します。
- ⑤ ミッションに関する調査・研究をし、広くアドボカシー活動を行います。

<バリュー>

【尊厳と信頼】ひとり一人が大切な存在であり、力があると信じること。

【願いと選択】何を目指すか、どう行動するかを問い続けること。

【教育と実践】ファシリテーターであると同時に、学び続ける実践者であること。

※カギ括弧の「国際理解教育」は、一教育分野としての国際理解教育を指すものではなく、ここに掲げたビジョン、ミッション、バリューを实践、推進する活動全体を指すものである。当団体の名称も同義である。

2 2021年度業務の全体像

(1) ワークショップの提供状況や内容の外観

◇参加の文化を拓げる指標の結果は下表のとおりである。2021年度は、依然コロナ禍は続いており、2017～2019年度のレベルまでにはなっていないが、2020年度と比較すると各指標の数値が回復しつつあるといえる。

指標名	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
業務数	36	37	32	18	27
WS提供日数	139	135	130	71	99
WS提供時間	442.5	460.5	496.0	292.0	396.5
WS参加者数	1,424	1,446	2,056	489	849
延べ参加者数	3,034	3,200	3,981	1,484	2,207
新規業務数	13	12	10	3	8
新規業務率	36%	32%	31%	17%	30%
継続実施数	23	23	22	15	19
指導者研修率	59%	51% [※]	47%	83%	63%

※ 業務数の中には6つの自主プロジェクトを含む。但し、WS関連数は対外的なものだけを計上した。

(2) 扱ったテーマ

◇国際理解系（SDGs、国際交流、多文化共生を含む）が17件と最も多く、次いで人権系（こどもの人権を含む）が4件などとなっている。

テーマ	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
国際理解系	12件	11件	11件	8件	17件
人権系	8件	7件	5件	4件	4件
環境系	2件	0件	1件	1件	0件
ファシリテーション・参加・まちづくり系	7件	14件	10件	1件	3件
全複合	1件	1件	2件	1件	1件

※：業務の中に種類の異なる複数の研修等がある場合は分けて計上した。内部向け自主プロは除く。

(3) **実施した地域** 対外的なワークショップを行わない自主プロジェクトを除く (母数 21 業務)

◇愛知県が 14 件と最多で大半を占めている。香川、東京はほとんどがオンライン実施であった。

地域	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
愛知県	23 件	22 件	18 件	8 件	14 件
岐阜・三重県	4 件 [2,2]	2 件 [2,0]	2 件 [2,0]	0 件 [0,0]	0 件 [0,0]
香川・高知県	6 件 [4,2]	5 件 [3,2]	5 件 [4,1]	1 件 [1,0]	4 件 [4,0]
その他遠県等	3 件 北海道、長野 2	3 件 長野、滋賀、東京	2 件 長野、茨城	3 件 長野、茨城、山口	3 件 長野、静岡、東京

(4) **主催者** 対外的なワークショップを行わない自主プロジェクトを除く (母数 21 業務)

◇教育団体系 (教育委員会、学校) からの依頼が回復し 9 件と最も多く、次いで自治体系、JICA が各 4 件、NPO が 3 件、民間団体が 1 件となっている。

主催者	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
教育団体系	9 件	11 件	9 件	1 件	9 件
NPO	7 件	8 件	7 件	3 件	3 件
自治体系	7 件	6 件	7 件	2 件	4 件
JICA	5 件	5 件	3 件	4 件	4 件
その他民間団体	1 件	2 件	1 件	3 件	1 件

(5) **ワークショップの時間** 対外的なワークショップを行っていない事業を除く

◇3~4 時間が 7 件と最も多く、次いで 3 時間未満が 6 件、12 時間超が 5 件などとなっている。

◇提供時間が長い上位 3 位の業務は次のとおりであった。

- ・オルタナティブ・スクールあいち惟の森テーマ・スキル学習 110 時間
- ・JICA 中部 教師国内研修 (多文化共生) 72 時間
- ・JICA 中部 開発教育指導者研修 (実践編) 45.5 時間

業務あたりの WS 時間	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
3 時間未満	5 件	8 件	3 件	2 件	6 件
3~4 時間	6 件	7 件	10 件	4 件	7 件
4.5~6 時間	5 件	7 件	9 件	1 件	2 件
6.5~12 時間	4 件	6 件	2 件	1 件	4 件
12 時間超	13 件	11 件	8 件	8 件	5 件

※：1 業務の中に種類の異なる研修・講座がある場合は分けて計上した。

(6) 依頼ファシリテーター数、時間（担当）

◇依頼ファシリテーター数（複数回講座でも1人で担当の場合は1人として計上）は42人であった。

◇代表の請負率（代表率）は55%であり、研究員請負率が40%と同程度となっている。

◇2021年度現在の研究員がファシリテーターを担った者は、過去最も少なく6人となり、過去最多の9人から3人減っている。

ファシリテーター		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
代表	伊沢	23	25	23	15	23
研究員	平野	5	4	4	1	2
	伴	6	4	4	3	
	久世	3	2	3	2	3
	川合	3	1			
	堀川	1	1	1		
	田口	3	5	4	3	3
	鉄井	5	5	5	4	6
	長野	2	5	2	2	2
	吉岡	1	1	1		
	佐藤	1	1	1		1
	谷口	1	1	1	1	
研究員補等	永吉		2	2		
	二宮			1	1	1
	大島			1	1	1
	夏目		1		2	
合計		54	58	53	35	42
代表率		43%	43%	43%	43%	55%
研究員請負数		18	28	26	16	17
同上率		33%	48%	49%	46%	40%
研究員補等請負数		12	2	4	4	2
同上率		22%	3%	8%	11%	5%
備考 (複数F依頼)		JICA(3) 刈谷(3) 春日高(2) ボラセン(5) JICA北海道(2) 三重環境(2) 名古屋JC(3)	JICA(3) 刈谷(6) 中京大(5) 春日高(2) ボラセン(5) 名古屋JC(3) 惟の森(5)	JICA(3) 刈谷(2) 春日高(2) ボラセン(5) 惟の森(10) 北一社小(2) JICA筑波(2)	JICA(5) 名古屋JC(4) ボラセン(4) 惟の森(10)	JICA中部(3) JICA四国(4) 香川県国際交流協会(5) 惟の森(6)

注：自主講座、打合せ会議、市民主体のイベント支援に関わるのファシリテーターは除く。
2020～21年度はオンラインによるサブファシリテーターを含む。

3 各ミッションに対する 2021 年度の総括（成果と課題）

① 社会の課題に気づき、人権・環境・平和を守る価値観や行動力を育みます。 担当:川合

2021 年度の事業計画のミッション①に関する総括は次のとおりである。

取り組み名	成果と課題
(a) NIED が提供する講座・研修のねらいへのミッション①の組み込み	◇前項(2)扱ったテーマに示したとおり、NIED が実施する研修・講座のねらいに、ミッション①の要素を組み込み、提供することができた。
(b) ミッション①に関する評価指標づくりと試験運用	◇NIED が提供する講座・研修が、ミッション①に寄与しているかどうか、総合的系統的に整理・分析ができる評価指標をまとめ、実際のアンケート形態の文書を作成できた。 ◆今後、実際に NIED が行う各講座・研修で、アンケートを行い、集計・分析が必要となる。

② 自分、他者、社会に関わるスキルを培い、社会に対する効力感を育みます。 担当:川合

◇NIED が考える「自分、他者、社会に関わるスキル」とは、次のようなものである。



取り組み名	成果と課題
(a) NIED が提供する講座・研修のねらいへのミッション②の組み込み	◇前項(2)扱ったテーマに示したとおり、NIED が実施する研修・講座のねらいに、ミッション②の要素を組み込み、提供することができた。
(b) ミッション②に関する評価指標づくりと試験運用	◇NIED が提供する講座・研修が、ミッション②に寄与しているかどうか、総合的系統的に整理・分析ができる評価指標をまとめ、実際のアンケート形態の文書を作成できた。 ◆今後、実際に NIED が行う各講座・研修で、アンケートを行い、集計・分析が必要となる。

③ 様々な教育現場で、参加型の人権教育・環境教育・平和教育などを広め、またその担い手を養成します。

(3) ミッション③に関する NIED の自主的取り組み

◇ミッション③に関する NIED の自主的取り組みについての実績・成果及び課題は次のとおり。

(1) 学習者に直接、基礎的なテーマ等を提供する講座 の 2021 年度実績

◇現場…6 件：刈谷市内小学校、刈谷北高校、名古屋市立高校、あいち惟の森、浜松北高校、
光ヶ丘高校、名古屋市中生涯学習センター（昨年度 3 件）
◇テーマ…開発・国際理解教育 2、SDGs2、多文化共生 1、複合 1
◇参加者数…261 人（昨年度 88 人）、 ◇延べ 888 人（昨年度 646 人）
◇提供時間…142.0 時間（昨年度 126.0 時間）

(2) 担い手を養成する研修 の 2021 年度実績

◇現場…15 件：JICA 中部、名古屋市、JICA 四国、長野 SDGs プロジェクト、
なごや子ども応援委員会、名東高校、香川県教育委員会、名古屋市教育委員会
刈谷北高校、香川県国際交流協会、津島市立東小学校（昨年度 7 件）
◇対象…教員中心 9、自治体職員 3、地域一般 3
◇テーマ…国際理解系 9、人権 4、探究・ファシリテーション 2
◇参加者数…487 人（昨年度 281 人）、 ◇延べ 991 人（昨年度 694 人）
◇提供時間…212.5 時間（昨年度 118.0 時間）

a. 参加型で世界は変わる～NIED国際理解教育講座テーマ編 2021 担当:久世

区分	実績・成果	課題
学習者に直接、 基礎的なテーマ等を提供 する講座 ①T講座	◇コロナ禍のため、ファシリテーター立候補者 もなく、講座を行うことは断念した。	◆2年間、T講座を行えなかったこともあり、NIED のステップアップシステムにも穴を開けている。今 年こそ、対面でのWSを再開する。
その担い手を 養成する研修 ②T講座プロジェクト	◇T講座そのものを開催出来ず、そのための 研修も行えなかった。	◆T講座を再開し、NIEDにおける学びの再生産シ ステムを再構築する。
その担い手を 養成する研修 ③NIED寄合T講座系	◇T講座そのものを開催出来ず、そのための 寄り合いも行えなかった。	◆NIED の人材育成のためにも、T講座とそれに伴 う寄り合いを継続していく。

b. 参加型で世界は変わる～NIED国際理解教育講座ファシリテーター編 担当:伊沢

区分	実績・成果	課題
その担い手を養成する研修 F講座	<p>◇「NIED ファシリテーター講座 参加と対話を文化に！」を、3年ぶりに対面式で開催することができた。</p> <p>ファシリテーションのベーシックを押さえながら、この3年間に収集した新たな材料や情報を加えたプログラムを提供することができた。</p> <p>◇参加者は第1回12名、第2回14名、第3回14名。NIED外の参加者が8名で多様な所属からの参加があった。</p> <p>◇終了後1名がNIEDに入会した。</p> <p>◇3回通して参加してくれたNIED会員が5名、NIEDT講座提供Fのステップクリアにつながった仲間が2名。F講座後NIEDに入会した参加者が1名。</p>	<p>◆対面式に拘り、次年度も早めの日程調整を進める。</p> <p>◆NIEDの評価指標を元にしたアンケートを実施し、分析する。</p>

c. オルタナティブ・スクールあいち惟の森 テーマ・スキル学習プロジェクト 担当:伊沢

区分	実績・成果	課題
学習者に直接、基礎的なテーマ等を提供する講座	<p>◇本格開校して3年目、生徒数は24名。惟の森の主要5カリキュラムの1つである「テーマ・スキル学習」に、NIEDは2名(低学年と高学年に1人ずつ)のファシリテーターを派遣している。今年度は、年間で22回(66コマ)、基本構想に則ったテーマとスキルでプログラムを提供した。</p> <p>◇子どもたちの特徴やクラスの様子を把握し、学習者の興味関心を引き出しながらテーマ・スキルの目標を達成できるよう、ここまでの経験知を加味してアクティビティを工夫した。</p> <p>◇テーマ・スキル・ファシリテーターとして新たに1名が、NIED 研究員より加わった。また、現場スタッフに1テーマを担ってもらおうという試行ができ、子どもたち・ファシリテーター双方にとって新たな視点の提供と刺激となった。</p> <p>◇途中複数の子どもが転校することとなった前後は落ち着かない状況もあったが、子どもたちもテーマ・スキルに慣れ、学びや気づきは確かに蓄積され、「人は学び変わる」ことを実感することができた。</p> <p>◇1年目から各F提供プログラムを蓄積共有することで、プログラム作りに要する時間が以前よりも短縮され、現場の子どもたちにあうように、ブラッシュアップすることもできている。</p>	<p>◆2022年度は16回と回数が減り、月に1回の提供になるので、テーマを厳選することが必要。</p> <p>◆今後数年を目処に惟の森担任スタッフにテーマ・スキルを移譲していくことを意識して、モデルプログラムをまとめていく。</p>

d. IVY(アイビー) 制度 担当:川合

…NIEDメンバーが他のNIEDファシリテーターが実施する研修・講座等に同行し、実際にワークショップやファシリテートを見て学ぶ機会を作るもの(交通費自己負担、報告書要提出)。

区分	実績・成果	課題
その担い手を養成する研修 IVY 制度	<p>◇2021年度の利用は、コロナ禍で制約がある中ではあったが、2件2人(JICA 開発教育指導者研修(実践編)、市立高校 SDGs ユース会議)であった。</p>	<p>◆2015年度の会員アンケートでは、「利用したい」69%と利用意向は高いが、コロナ禍が続く中、可能な範囲で、引き続き利用をアピールしていくことが望まれる。</p>

e. NIEDファシリテーター制度(研究員、研究員候補、T講座F経験者) 担当:川合

区分	実績・成果	課題
その担い手を養成する研修F制度	<p>◇受託・派遣を担った代表以外のファシ・サブファシは次のとおりであった。</p> <p>① T講座F経験者… 0人</p> <p>② 研究員候補…2人(大島、二宮)</p> <p>③ 研究員…6人(平野、久世、田口、鉄井、長野、佐藤)</p> <p>◇代表以外がファシを担う割合が 45%(日数ベース)となり、業務レベルでは半数以上を占めているが、2022年度はオンラインでのサブファシ需要もあった。</p> <p>◇ファシリテーター制度でステップアップしたファシは以下のとおりであった。</p> <p>① T講座F経験者… 0人(昨年度0人)</p> <p>② 研究員候補…0人(昨年度0人)</p>	<p>◆NIED ビジョン実現に向けて、より多くの研究員を育てるミッションを進めるため、NIED ファシリテーター制度におけるステップアップ者を増やせるよう検討、実施していく必要がある。</p>

④ 様々な地域やテーマの場で、参加と対話によるコミュニティづくりを進め、またその担い手を養成します。

(1) NIEDが直接コミュニティづくりをする事業の 2021 年度実績

◇地域・テーマの場…4件 刈谷市外国人、地域コミュニティ、Demo、名古屋 NGO センター (昨年度1件)
 ◇参加者数…64人 (昨年度20人)、 ◇延べ95人 (昨年度44人)
 ◇提供時間…28.0時間 (昨年度16.0時間)

(2) その担い手を育成する研修の 2021 年度実績

◇地域・テーマの場…1件：香川県綾川町 (昨年度3件)
 ◇対象…多文化共生のまちづくりサポーター1
 ◇テーマ…多文化共生1
 ◇参加者数…25人 (昨年度100人)、 ◇延べ25人 (昨年度100人)
 ◇提供時間…4.0時間 (昨年度32.0時間)

⑤ ミッションに関する調査・研究をし、広くアドボカシー活動を行います。

(1) ミッション⑤に関する NIED の自主的取り組みの成果と課題

◇ミッション⑤に関する NIED の自主的取り組みに関する成果と課題は次のとおり。

e. わたし・あなた・みんなプロジェクト = ミッション②の自分に関わる力に関する研究・発信 担当: 滝

区分	実績・成果	課題
① SE ラボ 寄り合い	◇計 9 回の SE ラボ寄り合いを開催できた。 ◇そのうちの 6 回が新設された会員コミュニケーションプロジェクトとのコラボであり、プロジェクト間のコラボにおける成果を感じられた。	◆(課題というより、発見ということを前提に) コラボで取り組んだことが会員全体の交流で、それがプロジェクトとして初のことであり、さらに NIED の理念共有にも根差しているとなると、いち会員であるプロジェクトメンバーが「団体を背負う」といった緊張感も生じ、それこそが重要ではあるものの、結果的に企画の進展が遅くなっている。
②「わたし、みんな、あなた」に関する研究・発信	◇NIED が考える「わたし、あなた、みんな」と、「直接的暴力、構造的暴力、文化的暴力」の共通性を研究するにおいて、NIED 会員交流会という場を得られた。	◆まずは、左記の問題提起がどこまでの共通認識を得られるか、それを会員に諮ってみる段階であり、研究の道りは始まったばかりで、遠い。 ※つまり、我々が当然とする NIED の理念を普遍的なものにするには、道のりが遠いということ。

f. NIED本出版プロジェクト = ミッション②③に関する研究・発信 担当: 田口

実績・成果	課題
◇「よりよい未来をともに学び・ともに創るファシリテーターのための参加型アクティビティ集『コミュニケーション編』-他者に関わる力を育もう-」(初版 515 冊/2018 年 3 月出版、第 2 版 500 冊増版/2021 年 3 月)について ・継続して普及に取り組み 101 冊を頒布することができた ・金城学院大学のコミュニティ福祉学科 3 年生の授業(ファシリテーター論)にて「コミュニケーション編」が教科書として採用され、委託頒布をした。 ・開発教育協会に委託頒布をした。 ◇2 冊目の本「よりよい未来をともに学び・ともに創るファシリテーターのための参加型アクティビティ集『人権編』-身近な人権を考える-(仮称)」の作成に取り組んでいる。人権本は身近なテーマを取り扱う予定で、多様性、セルフ・エスティーム、ジェンダーなどのアクティビティの執筆を進めている。 ◇プロジェクトメンバーのミーティングを 20 回開催した。	◆コミュニケーション編残り残数をいかに頒布するか。 ◆人権本の作成をしているが、残り 20% 程度の執筆が残っている。

g. 公共プロジェクト =ミッション①②③に関する研究・発信 担当:谷口・吉岡

実績・成果	課題
<p>◇2018年から2022年4月から高等学校の公民科の新教科となる「公共」の授業で使える参加型の授業プログラムの作成を進めている。2021年度は、ほぼ毎月一回 Zoom を使った寄り合いを開催し、プログラムの開発を進めた。</p> <p>◇プログラムの開発が進み、現在原案としては7割程度固まってきた。</p> <p>◇「公共」の教科書が4月にそろそろ、内容の検討ができた。その中で、「参加型学習の手法」が本教材の一番の売りということが分かった。</p> <p>◇公共の教科書を手に入れることを、事務局に依頼した。</p> <p>◇作成した授業案をどのようにしてできるだけ多くの先生方の手元に届けるか、についての話し合いを続けている。助成金の申請、NETを利用してフリーで提供、などいろいろな意見が出ている。</p> <p>◇「アドボカシー」をテーマにしたプログラム作成に関して、「アドボのすごろく」を作成した団体とコラボした。今後協力関係を育んでいく予定。</p> <p>◇浜島書店さんから連絡があった。今後ウインウインな関係を作れるとよい。</p> <p>◇6月に森村豊明会に助成金を申請したが、9月に結果がわかり助成金を得ることはできなかった。そのため、プログラムの作成に十分時間をかけることができるようになった。</p>	<p>◆現在検討中だが、作成した授業案をどのように多くの先生方の手元に届けるかを決める。</p> <p>◆助成金が取れなかったことで、プログラム作成を進めるペースが遅くなっている。教科指導が始まっているので、プログラムの作成のペースをもう少し上げたほうが良い。</p> <p>◆プログラムを読みやすい形にするためのデザインやレイアウトをどのように進めるかを決める。</p> <p>◆プログラム作成や発表に関して、他団体との良い協力関係を作っていく。</p> <p>◆教材開発を進めるとともに、実践の機会を作り、教材をより良いものにしていく。</p>

h. 書籍活々(いきいき)プロジェクト =全ミッションに関わる調査・研究 担当:伴

実績・成果	課題
<p>◇NIED 会員と共に学び合うワークショップを4回開催した。 (10/16 気候変動、1/30 校則、2/19 海の生きもの、3/19 ジェンダー) 参加人数は延べ28名。(NIED 会員+プロジェクトメンバー=12名+16名)</p> <p>◇プロジェクトメンバーミーティングを10回開催した。</p>	<p>◆書籍整理・貸出管理の機会が持てなかった。</p>

i. NIED情報共有システム =全ミッションに関わる調査・研究 担当:川合

区分	実績・成果	課題
<p>実績成果の共有</p>	<p>◇実績成果に関わる情報ボックス「NIED-ShareBox-2」フォルダに、当該年度のT講座の記録、あいち惟の森のプログラムと教材を整理・格納した。</p> <p>◇受託業務への派遣される NIED ファシリテーターのニーズに応じて、過去のプログラムや教材を提供した。</p>	<p>◆情報ボックスの許容量の上限を上げる契約に変更し、共有する範囲を増やす。</p>

<p>一般情報 共有・交換</p>	<p>◇会員メーリングリストの年間投稿数は 235 件[前年度 133 件]であった。 ◇NIED 徒然の発行は、予定回数の 12 回行うことができた。 4 月(伴)、5 月(滝)、6 月(伊沢)、7 月(谷口)、8 月(吉岡)、 9 月(伊沢)、10 月(薄井)、11 月(田口)、12 月(伊沢)、1 月(川合)、 2 月(久世)、3 月(伊沢)。 ◇「NIED-ShareBox-1」は、一般的なウェブからもアクセスできるようなシステムを作り、周知を図った。</p>	<p>◆引き続き、定期的にNIED 徒然を発行し、内容の充実を図る。</p>
-----------------------	--	--

k. 会員コミュニケーション =全ミッションに関わる会員交流 **担当:薄井**

実績・成果	課題
<p>◇共同体としての意識を向上させ、会員間のコミュニケーションから新たなミッション実現のための種を生み出せるよう、2021 年度に発足。 ◇任意の自己紹介を会員 ML にて実施。 ◇夏ごろより、「わたし・あなた・みんなプロジェクト」とコラボし、NIED 会員であることを問い直し、会員間のコミュニケーションの活発化を目指すワークショップのプログラム作成を実施中。会員向けのワークショップ開催は、2022 年度実施予定。</p>	<p>◆任意ではあるものの、ML 上での自己紹介が進んでいない。 ◆「わたし・あなた・みんなプロジェクト」とのコラボ企画により、新たな発見があったが、プロジェクトメンバーのみでおさまる内容ではないことから、計画よりは遅れている。 ◆自己紹介以外で、ML 等を活用した交流策が打ち出せていない。</p>

j. ホームページ・広報プロジェクト =全ミッションに関わる発信 **担当:川合**

実績・成果	課題
<p>◇電子媒体による広報活動として、NIED の活動実績等を NIED ブログに 8 件[前年度 13 件]投稿した。 ◇NIED フェイスブックページは 1,035 人がフォローし、前年同期より 21 人増加に留まった。投稿数は● 件[前年度 11 件]投稿した。</p>	<p>◆ブログ、フェイスブックへの投稿数が減少した。コロナ禍で事業数が減ったこともあるが、広報担当者だけでは活動すべてを把握することが難しく、活動に関わる人が広報にもかかわったり、投稿したりできるような形にしていくことが望まれる。 ◆より伝わるような活動実績等の見せ方、その他発信の方法を検討する必要がある。</p>

4 事業の実施に関する事項（特定非営利活動に係る事業）

● A. 参加・対話・体験型の研修・講座などに対する相談・ファシリテーター派遣事業

(1) 事業内容

自治体、学校、民間団体などからの依頼により、国際理解、人権、環境などをテーマとした参加・対話・体験型講座・研修にファシリテーターの派遣を行った。

(2) 開催概要

2021年度は、合計17事業（前年度：8事業）で、研修等の提供時間は89.0時間（前年度：77.0時間）あった。個別の事業の依頼主／主催、事業名／研修テーマ、実施日時、場所、対象、参加者数、提供時間、ファシリテーター・スタッフなどの詳細は巻末一覧表、収入・支出の内訳は収支計算書類を参照のこと。

(3) 延べ参加者数 677人（前年度：385人）

(4) 収入額 1,536,461円（昨年度：1,469,853円）謝金、委託費、交通費等

(5) 支出額 937,891円（昨年度：881,513円）給与・法定福利費・臨時雇用賃金651,013円、謝金・外注費97,988円、旅費交通費188,140円、雑費750円

● B. 基礎研修およびファシリテーター養成などの自主講座事業

(1) 事業内容

主に、人権・環境など国際理解教育の基本テーマを扱う講座を自主事業として行った。

(2) 開催概要

2021年度は、合計2事業（前年度：0事業）で、研修等の提供時間は18時間（前年度：0時間）であった。

(3) 延べ参加者数 40人（前年度：0人）

(4) 収入額 232,000円（昨年度：0円）参加費

(5) 支出額 113,793円（昨年度：28,000円）給与・法定福利費・臨時雇用賃金80,933円、謝金・外注費28,000円、諸費交通費1,860円、雑費3,000円

● C. 環境や人権などを視点としたまちづくりのプロセス企画・実施事業

(1) 事業内容

地方自治体などにおける環境や人権を視点としたまちづくりのプロセス・プログラムの企画立案、ファシリテーターとしての支援、記録・報告書作成までの一連の業務を行った。

(2) 開催概要

2021年度は、合計3事業（前年度：3事業）、研修等の提供時間は75.0時間（前年度：46.0時間）のワークショップを行った。個別詳細は巻末一覧表および収支計算書類参照のこと。

(3) 延べ参加者数 417人（前年度：396人）

(4) 収入額 16,333,243円（昨年度：15,974,907円）委託費

(5) 支出額 14,787,322円（昨年度：15,204,396円）給与・法定福利費・臨時雇用賃金6,224,419円、謝金・外注費5,970,290円、旅費交通費532,770円、通信運搬費526,134円、印刷製本費1,225,943円、消耗品171,656円、雑費136,110円

● D. 目的を実現するために必要な調査・研究・情報提供事業

(1) 事業内容

国際理解教育・開発教育を推進するため、「必要な調査・研究を行う」、「PRする」ことを、研究会方式などにより行った。

(2) 開催概要

2021年度は、5つの事業（前年度：6事業）、研修等の提供時間は120.0時間（前年度：112.0時間）のワークショップなどを行った。個別詳細は巻末一覧表および収支計算書類参照のこと。

(3) 延べ参加者数 556人（前年度：512人）

(4) 収入額 208,320円（昨年度：82,114円）書籍頒布代

(5) 支出額 667,627円（昨年度：874,154円）給与・法定福利費・臨時雇用賃金157,042円、謝金・外注費460,590円、旅費交通費43,660円、通信運搬費4,860円、雑費1,475円

5 会議の開催に関する事項

(1) 総会 2021年度定期総会

日時 2021年6月5日（土）14:00～16:00 場所 オンライン

出席者数 正会員総数41人中、当日出席17人、委任状出席17人、合計34人

議題 (1) 2021年度活動報告（案）及び決算（案）の承認に関する件-----承認
(2) 2022年度事業計画（案）及び予算（案）の承認に関する件-----承認

(2) 理事会 2021年度は、下表のとおり10回開催した。

回	日時	議題	場所	出席
1	4月17日（土） 13:15～16:15	(1) 2020年度事業報告案について (2) 2021年度事業計画案について	オンライン	7人
2	5月14日（金） 19:00～21:00	(1) 2020年度事業報告案について (2) 2021年度事業計画案について (3) 総会の開催方法について	オンライン	7人
3	5月29日（土） 13:40～16:10	(1) 総会の進行方法について (2) 2020年度決算案、2021年度予算案について	オンライン	8人
4	6月30日（金） 19:10～21:30	(1) 各プロジェクトの進捗状況について (2) 会員交流とのコラボレーションについて (3) 休会制度について	オンライン	7人
5	7月24日（土） 14:20～17:30	(1) 各プロジェクトの進捗状況について (2) VMV事業評価指標のアンケート項目について	オンライン	7人
6	9月16日（木） 18:30～21:00	(1) 各プロジェクトの進捗状況について (2) VMV事業評価指標のアンケート項目について	オンライン	6人
7	10月9日（土） 13:00～16:00	(1) VMV事業評価指標のアンケート項目について	オンライン	8人
8	12月19日（日） 13:00～16:00	(1) 各プロジェクトの進捗状況について (2) 惟の森とNIEDの今後の展望について	オンライン	8人
9	1月15日（日） 13:00～16:00	(1) 会員交流について (2) 20周年に向けての展望について	オンライン	8人
10	3月5日（土） 14:10～16:30	(1) 各プロジェクトの進捗状況について (2) 代表、事務局長の世代交代について	オンライン	7人